

【シンポジウム】

神戸市立博物館

Kobe City Museum

三好唯義*

Tadayoshi MIYOSHI

神戸市立博物館の学芸員をしております三好でございます。今日は阪神大震災と博物館ということで、話をしろということで、神戸からやって参りました。地震の1月17日から数えますと、約5ヶ月の日々が過ぎようとしているわけですが、ニュースでお聞き及びかと思いますが、関西の大手私鉄であります阪急電車が、今日、梅田と神戸の間が直通、開通したということで、生活の上ではかなり元のように戻りつつあります。私自身のことを申し上げても何ですが、私は、家が神戸市灘区というところでありまして、灘区は亡くなられた人の数からいいますと、東灘区、西宮市に続きまして、三番目に多い地域であります。けれども、何と申しますか、被害の状況が線を引いたようにですね、被災地域とそうでない地域とはっきり分かれておりまして、幸い私の自宅はそれほどひどくはない地域であります。被害だといって人に言えば、笑われるような程度で済んで、まあ幸いなんですけれども、まさにその運というものがある。運がある、ないということがですね、そうとしかいいようがないというような、生死の境でさえも、一つ間違えば、自分がそういうひどいほうに転がっていたんではないか、というようなことを、今にして思いましてぞっとしております。

私達の博物館でございますけれども、場所は神戸市の中央区京町というところでありまして、三ノ宮駅、神戸でいいますと一番繁華な交通至便の中心地ではありますが、その三ノ宮駅から歩いて約10分程のところにあります。立地の場所としましては、神戸が明治の初年に開港したときに、外国人居留地とし

て開発された、その場所であります。ですから、神戸の歴史の上においても核となる場所でありまして、現在の市民の方々にとっても、アクセスの上からいいますと、一番便利ないところになっているわけでありまして。

ただ、今申しましたように海岸部分でありますし、博物館のすぐ東には、もともと生田川という大きな川が流れておりまして、それだけ申しまして、立地の土台と申しますか、地盤がそれほどよくないというのは、おわかりいただけると思います。

ここにありまして、私どもの博物館は昭和10年の建築になります横浜正金銀行の建物をそのまま採用しております。それはそれで歴史的建築物を残す上から、当時の判断は正しかったと思うんですけども、こういう地震が起きてみますと、やはりそういう古い建物は、外見からは問題はなさそうに見えますが、やはりいくつか問題が起きました。今も壊れているとか傾いているとか、そういうことはあまりないんですけども、地下構造、地下部分がですね、どうも弱かったようでした、やられ方がひどい。

また後でスライドをご覧に入れますけれども、その古い建物に付け加える形で新館を建設し、収蔵庫でありますとか、そういう重要な場所をですね、付け加えて博物館として、昭和57年にオープンいたしました。今回の地震でやはり被害を受けた点はその点でありまして、新館と旧館の繋ぎの部分が離れてしまいました。その離れた部分が地下部分にまで及びました。地下の床が割れて、床から水が吹出まして、実は恥ずかしい話なんですけれども、未だ

*みよし ただよし

神戸市立博物館・学芸員

にその湧き水が止まっておりません。まだずっと汲出している状態であります。地下部分は私ども、講堂ですとか、紙以外の資料を収蔵する収蔵庫などの施設があります。レジュメに土器が割れている写真が載っていると思いますが、地下部分の収蔵庫の写真であります。

ついでのことながらということで、その下にちいさな囲みで神戸で震度1という記事をつけておりますけれども、これは実は地震の当日朝、私どもの家のポストに入っておりました新聞の中に、こういう記事がありまして、後で見てびっくりしたんですけども、これは別にその17日の大地震の前ぶれだという意味での記事ではありませんで、神戸という町はもともと震度1の地震で、新聞記事になると申しますか、決して地震から免れてきた土地柄ではないはずなんですけれども、市民も、それから町もと申しますか、それから様々な方面の方も含めまして、震度1の揺れぐらいで、新聞記事になるような町でございまして。地震対策に対して、事後の処理が遅れたとか、いろいろ批判を受けますが、関東の方からいいますと、なんということだということになるんでしょうけれども、神戸の方はこういう認識が普通だったということでございます。

プリントの順番でご説明いたしますけれども、被害状況というものを表にして参りました（付表参照）。資料のどういふ分野にわたって、どういふものが被害を受けたかということとして、上半分が常設展示室、つまり展示中のもので、これだけの割合で被害を受けたということになります。この表だけ見ますと、たいへん多くの資料がやられているように見えますが、実は下の表で見ますと、合計133件184点という数が、当時確認された被害状況であります。当館の収蔵資料から申しますと、全収蔵資料が三万何千件ということですので、まあ1%にも満たない数、0.3%ですか、それぐらいになりますので、資料自体の被害は数字の上だけでいえばびっくりするような被害ではないということです。ただ展示室に展示している部分の資料、被害の資料の8割はですねえ、展示中のものであるというようなことが、この表から読み取っていただければと思います。

やはり、収蔵庫は、それほどではないといいますが、まだ細かい調査が行き届いていないというこ

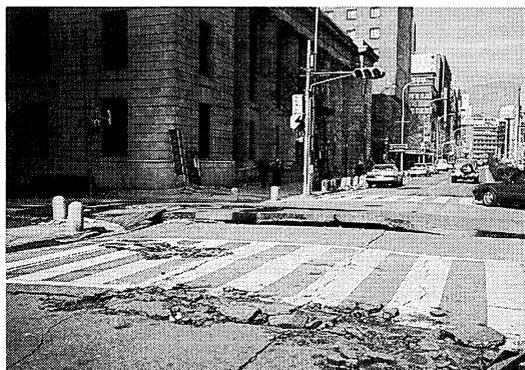


写真1 博物館の南東交差点や京町筋を北向きに撮影（1月17日）：交差点中央、東西方向にアスファルトが割れて大きく持ち上がっている。京町筋（博物館付近）は、自動車道と歩道に大きな高低差がついた。

ともありますけれども、大体のものは、ケースに納まっていたりとか、木箱に入っていたりとか、そういうようなことですので、仮にある程度の高さから落ちましても、それほど被害を受けなかったということとして、展示室の場合は、それぞれいろいろ保護はしているんですけども、それをはね除けて落ちて割れてしまったり、というようなことがいえます。

先程から申しますように、資料はそれ程ではないんですけども、建物のほうが重大な被害を受けているのが、今の現状であります。（写真1）

ここに見えていますのが、昭和10年の銀行の建物の部分です。これの西隣に、新しく新館を建て加えています。博物館の歴史からいいますと、横浜の神奈川県立博物館の方が先ですが、ともに横浜正金銀行の建物を利用したということになります。これが正面の部分です。だいぶ地面がめくれ上がっている状態が見えると思います。ちょっと見えにくうございますけれども、この階段が一段分ぐらいずれているというのがご覧いただけると思います。ちょうど下がっている部分、階段一段分ぐらいなんですけれども、こちらの道路側の部分が沈んでおります。

先程森田さんのお話して栄光教会の被災状況を紹介していただきましたけれども、博物館の西隣にあります居留地十五番館という、最近、つい最近重要文化財に指定された明治の洋館で、神戸の外国人居留地内では一番古い建物といわれていたものなんで

すけれども、今回の地震でももの見事にべちゃんこにつぶれてしまっている。非常によいコロナ風の建物だったんですが、こういうような現状になってしまっています。地面もうボコボコであるというのが、よくわかっていただけたと思います。

これは私どもの展示室の一階のホールの部分なんですけれども、一番手前にありますこれは、左面に展示ケースになっておりまして、右面は石を使って、船のレリーフを掲げてあるというもので、三つ並んでありまして、三つのうち真ん中は倒れていまして、一番こちらで見ていただくとわかりますけれども、これだけ動いているというようなことであります。これは一階の常設展示室のケースでありますけれども、やはり常設展示の場合はこういうような倒れ方をしまして、倒れたケースで資料が傷つくとか、倒れた時の割れたガラスで資料が傷つくとか、そういう二次的にと申しますか、そういうような形での被害が多数ございます。

これは常設展示の弥生時代、弥生土器の変遷を示したケースなんですけれども、土器はこのように、広く散って割れております。先程の表を思い出していただいたら結構かと思うんですが、常設展示の被害の数がかなり多いとというようなことでございます。それから、上からルーバーが落ちてきています。これで二次的にやられているという状況もかなり多数ございます。このルーバーを考えますと、ただ載せているだけです。揺れば当然上から落ちてくるということで、このルーバーはどうにかならな

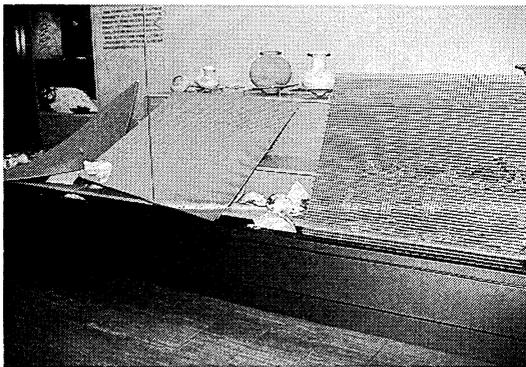


写真2 旧館2階展示室4の固定ケース：アルミニウム製のルーバーが落下して、資料の被害が拡大した。

いかなあというのは、当館の学芸員の間では話題になったことなんですけれども、これが落ちてきているケースが非常に多いです（写真2）。

よく展示される方法ですが、これ引っかけの仕方ですね。これももちろんテグスなんかで補強はしておるんですけれども、これがほとんど落ちているということ。というようなことで、こういう展示の在り方も、もう二度としてはいけないのではないかという反省となっております。

これはですね、私どもの新館のほうの特別展示室の一室でして、私どもの博物館の二階部分に南蛮美術館と称しまして、一つの展示室を作っておりますが、その部屋で、実は16日まで南蛮美術名品展をやっております、17日の朝こういう目にあった。壁付きのケースが倒れてるんです。これも、このケースの材質等から考えましたら、おそらく重さは1トン以上あるだろうというようなことなんですけれども、高さのわりに、底面積と申しますか、底が小さかったようでして、このように見事に倒れております。実はこの二階の部屋のもう一階上に、同じ面積の特別展示室1という展示室があるんですが、不思議なことに、同じ場所のケースが倒れております。揺れ方はそこだけ違ったのかどうか、ちょっと今のところわからないんですが、これを違った方向から見ているのが次です。今の逆といいますか、90度ふって見た形で、この方向が私どもの博物館でいいますと、南を向いております。ですから東西に大きく揺れたんだらうなあというのがわかると思います。

余談なんですけれども、実はこの16日の5時で、南蛮美術名品展を終ったわけなんですけれども、5時からここに展示してありました狩野内膳筆の南蛮屏風を文化庁の重要文化財指定のために調査するというので、急いで荷造りしまして6時前に当館から運びだしたんです。たまたまその半日後といいますが、翌日に地震が起きました。その狩野内膳の屏風はこのたび春の指定で重要文化財になったんですけれども、普通の休館日に搬出しようということで、翌日にまわしていたらどうということになっていたかと思いますが、まさにこれも運があるなあというようなお話になってくると思います。

これは今その横にありました可動ケースですけれども、これだけケースが踊るようにして動いている

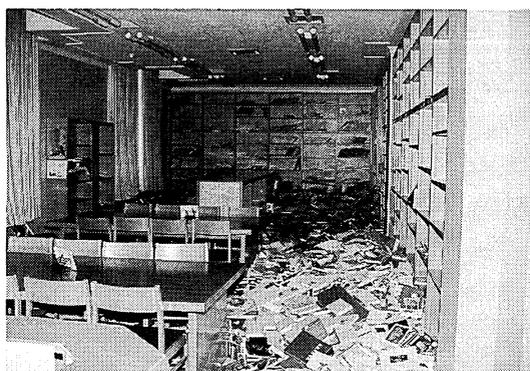


写真3 旧館2階図書室は、ほとんどが固定書架だったので、書籍が落下するだけの被害にとどまった。

ということであります。これは学習室のコーナーでして、こういう復元の模型も置いてあるだけです。このように落ちて見事に壊れている。先程のプリントでいいますと、複製物というところで被害状況に入っているものであります。これは柳原義達先生が作られました銅像、平清盛像ですが、台の上ののっていたのは、もの見事に落ちている。高さのあるものですから、少し落ちて仕方がないなあと思いますけれども、こういう形であります。

これはおわかりかと思いますが、図書室の状況で、私どもの博物館二階に開架式の図書室をしつらえてありまして、入館者の方が参考文献を読めるというようなところなんですけれども、私一番最初にこの場を確認したんです。本がですね、上の棚からぼろぼろ落ちるといような状況じゃなくて、後ろから思いっきりボンと叩かれたように、塊として飛び出してきたおりました、あちらの面には多少残っておりますが、この面は南向きであります(写真3)。方向でいいますと、先程東西に揺れたということをお話ししましたので、こちらもボンと出て当然だと思うんですが、こちらの南向きの本棚がですねえ、ほとんど一冊も残らずに本が飛び出していた状態。ですから高いところから、本がぱらぱらと落ちたというのではなくて、一斉にバンと一撃です。放り出されたという状況で、ほとんど山になっておりました。

これは私どもの収蔵庫です。あんまりこういうお恥ずかしいスライドを見せるのはどうかと思うんですけども。収蔵庫で被害を受けておりましたもの

は、ほとんどこういう形で木箱に入っている陶磁器類、これが落ちた拍子に壊れたという様なことあります。これはご覧いただいたらよくおわかりかと思いますが、木箱に入れてあるということで、二段にも三段にも積み重ねられておりますんで、これは半分は学芸員の責任ではあるんですけども、これもその棚のところに、ロープなり何なりを事前に張っておけば、多少防げたのではないかと考えています。それからご覧いただいております木の棚は、かなり高さのわりに底面積は広うございますんで、倒れるというようなことまではいきませんでした。

そのため、幸いこの程度のことで済んでおります。これは江戸時代の和本を入れてあった本棚なんですけれども、斜めになっているこちらの手前は完全に倒れています。これは東西方向に揺れて、こういうふう倒れています。

今回一番問題でありましたのは、こういう引き出し式のいわゆる市販のマップケースを使って収蔵していた資料でありまして、実はここの博物館には古地図の担当という、全国の博物館の学芸員の中でも、かなり珍しい学芸員がいるのですけれども、白いほうのマップケースにはこちらの資料を全部入れておりました。揺れた拍子に引き出しが出てきまして、前に重みがかかって、それで横転していくというようなことで、ほとんど、全部倒れています(写真4)。あまり高くしてはいけないというのは当初からわかっておりましたから、五つの引き出しが付いている



写真4 同じ収蔵庫10でもスチール製のマップケース(写真は入口に近いところに置かれていたもの。1月21日撮影)は、振動で引き出しがすべて開き、前倒しになった。

一塊のマップケース、三段積みという形でセットしておいたんですけれども、それが全部横転しております。今回そういうことで、破れまではしませんでしたけれども、こういう形で折れたりとか、というような被害が古地図にはありました。それから思わぬ被害のケースですけれども、こういう形でマップケースが揺れることによりまして、隠れていた錆びが資料の上に落ちてきました。その錆びを点検しながら振り落として、別の箱に収納している作業しております。やっぱりこういうものは、ストッパーを付けるなり、なんなりというのが必要なんだなあと思いますけれども、実際に資料を一年中出したり入れたりしておりますと、いちいち鍵をかけるというわけにはいきませんし、マップケースを全部つないでおくわけにもいきません。そこら辺は難しいところです。これもマップケースが転がっている状態で、次に戻した状態があります。これが急いで先程の倒れたものを元に戻したんですが、やはり同じ様な状況で引き出しが出ることによって前に重みがかかって全部転がり落ちるといった状態です。

これはちょっと見ためにはわかりにくいと思いますが、実は先程申しました旧館に新館を建て加えたという構造を申しましたけれども、右の部分が旧館の部分で、左が新館の部分です。この部分はお客様用のエレベーターなんですけれども、ここと新館部分の間が離れまして、床の一部分が崩れたと申しました。この割れ方が地下のほうまで達しております。これが地下一階の部分です。ちょっと泥がかかっているのがよくわかると思います。ここでは泥が、このように天井にまで吹き上がっています。今回液状化現象という言葉がよく聞かれましたですけど、泥がどろどろと下から出てくる様なものかと思いますが、これだけ天井にかかるくらい吹き上がっているというような吹き上がり方です（写真5）。ですから、地下部分が泥と水で、どろどろになって

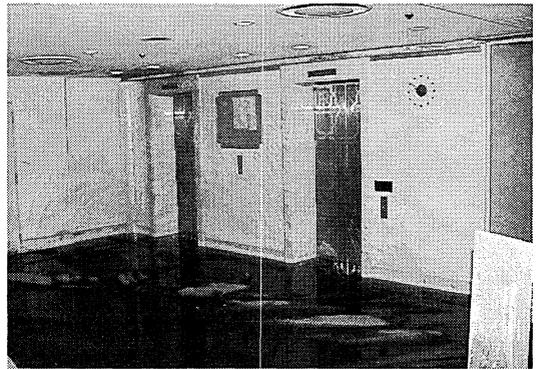


写真5 階段から地階エレベーターホールを撮影（1月21日）：地盤の液状化によって湧き水とともに噴砂が見られ、奥のエレベーター前の天井まで達している。

いたというような状態が一月ぐらいいったということです。

これはですねえ、先程の地下の同じ部屋の床の部分なんですけれども、赤いしまのようになっておりますのは、これ実はこの部分赤いじゅうたんを敷き詰めておりまして、そこに水がずっと溜まっていきまして、白く見えているのは溜まっている水であります。このような状況は今はいっぶん改善されましたけれども、水はまだ出ている状況です。建物が古いのですので、結局地下部分はしっかり作らないで、その上に建て上げたものですから、どうしても地下部分が、外見を見るより以上に弱いということです。それがこういう形で被害としてあらわれてきたといえるでしょう。

ただ今博物館は休館中でして、今年いっぱいをかけて、どうにか元の形にしたいというふうを考えているわけなんですけれども、現状をこう見ますと、はたして今年いっばいで間に合うかどうかとちょっと不安ではあります。

常設展示室被害状況

		展示総数		被害資料数		被害資料数	
		(件数)	(点数)	(件数)	(比率)	(件数)	(比率)
常設展示室	1	55	121	12	21.8%	17	14.0%
	2	18	24	2	11.1%	2	8.3%
	3	110	136	26	23.6%	36	26.5%
学習室	触るコーナー	19	19	10	52.6%	10	52.6%
ホ	ール	5	5	1	20.0%	1	20.0%
1階部分	小計	207	305	51	24.6%	66	21.6%
常設室	4	81	276	23	28.4%	28	10.1%
	5	98	193	27	27.6%	28	14.5%
ギャラリー	ー	5	5	1	20.0%	1	20.0%
2階部分	小計	184	474	51	27.7%	57	12.0%
合計		391	779	102	26.1%	123	15.8%

分野別(材料別)	件数	点数	分野別件数	分野別点数	比率	分野別比率	展示室内(件数)	収蔵庫内(件数)	
絵画資料	14	14	14	14	8%	8%	7	7	
彫刻	3	3	3	3	2%	2%	2	1	
工芸品	陶磁器	9	13	21	28	7%	15%	4	5
	漆工	2	2			1%		2	
	ガラス	4	7			4%		4	
	金工	6	6			3%		6	
地図資料	2	2	2	2	1%	1%		2	
考古資料	金属製	6	7	45	51	4%	28%	5	1
	土器類	39	44			24%		39	
歴史資料	29	34	29	34	18%	18%	28	1	
複製・模造・模型	19	52	19	52	28%	28%	17	2	
合計			133	184		合計	106	27	
						比率	80%	20%	